

## 『 ここにいるよ! ナメクジ 』

皆越ようせい 写真・文  
ポプラ社



先日、我が家のリビングで娘が「うわ~!! なんてここにいるの?!」と、叫び声をあげました。

この本の題名通り、ナメクジです。新聞受けに潜んでいたところを、夕

刊の雨除けのビニールにくっついて運ばれてきてしまったようです。

私にしても「ナメクジ」イコール「退治するもの」という考えが子どもの頃から刷り込まれている感じですが、この本の表紙を見るとちょっと戸惑いが生

まれます。光の反射がちょうど、赤ちゃんナメクジの目に笑っているような線を描き、叫び声をあげた我が家の娘でさえ「カワイイ!」・・・です。

身近にいながら、その生態は、まだよくわからないところが多いとのこと。おもなナメクジとして5種類のナメクジが紹介されていますが、そのうちヨーロッパからの外来種が2種。大型でマダラ模様だったり、「コウラ」をもっていたり。ナメクジの世界まで外来種がいるのかとはじめて知りました。

「最近では見る機会が少なくなっています。」とあるのですが、そうでしょうか? 先月のやままゆ連でもホットな話題になっていましたね。あちこちで、あの歯舌の跡を見るような気がするのですが・・・

(遠藤)